

パネルディスカッション 3

「消化管出血（静脈瘤破裂を除く）の予後不良症例の検討」

Characteristics of refractory GI bleeding associated with poor prognosis

司会 掛地吉弘（神戸大学大学院食道胃腸外科）

飯島克則（秋田大学医学部附属病院消化器内科）

消化管出血は、内視鏡的手技によって、多くは、止血可能となっているが、抗血栓剤内服中などの止血困難例が少数ながら存在する。また、高齢、全身性の合併症のために止血はなされたにもかかわらず、不幸な転帰をとる症例もわずかに存在する。本ワークショップでは、消化管出血の止血困難例、または、予後不良例を各施設から持ち寄って、その特徴を明らかにし、対応についても議論したい。